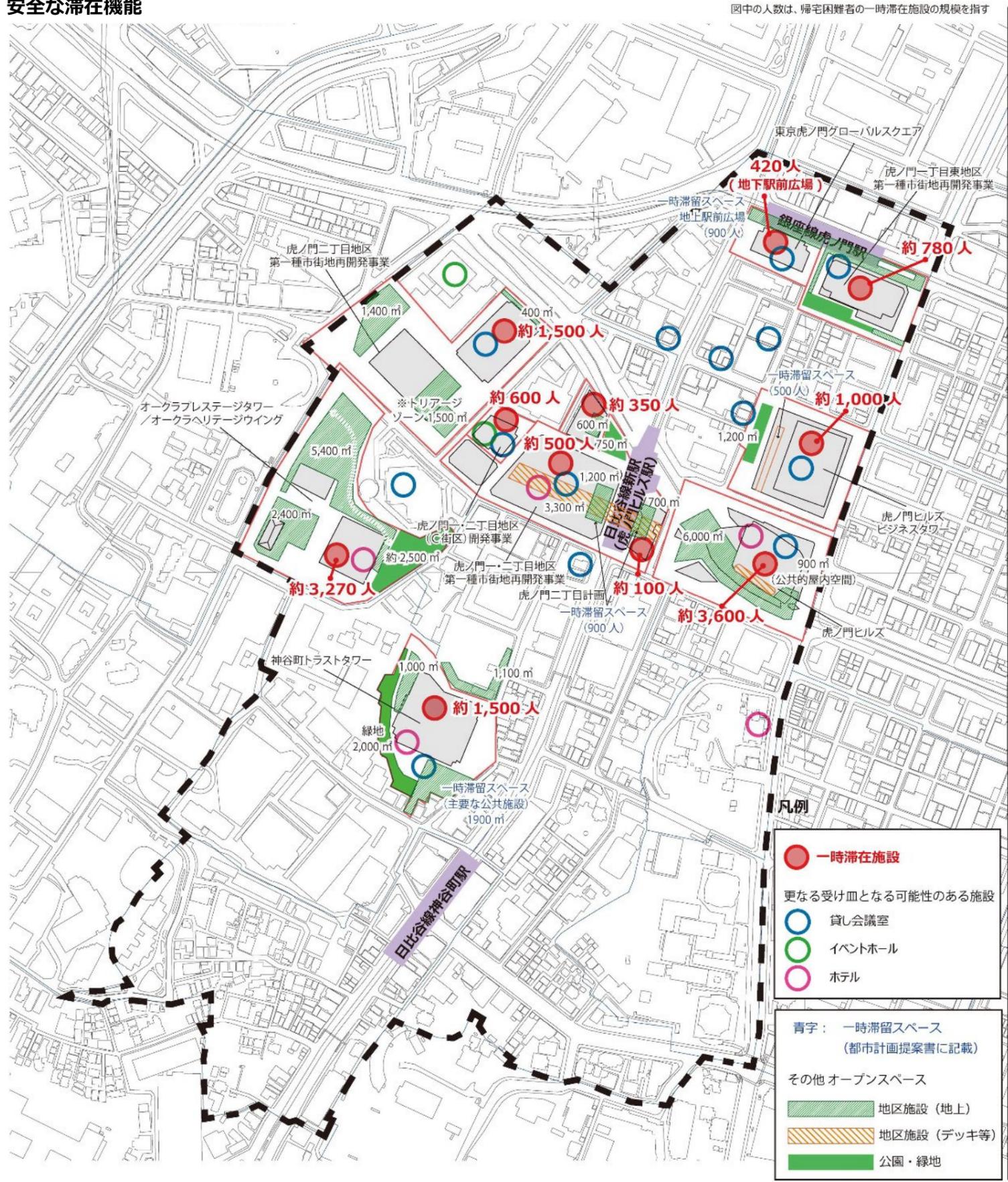
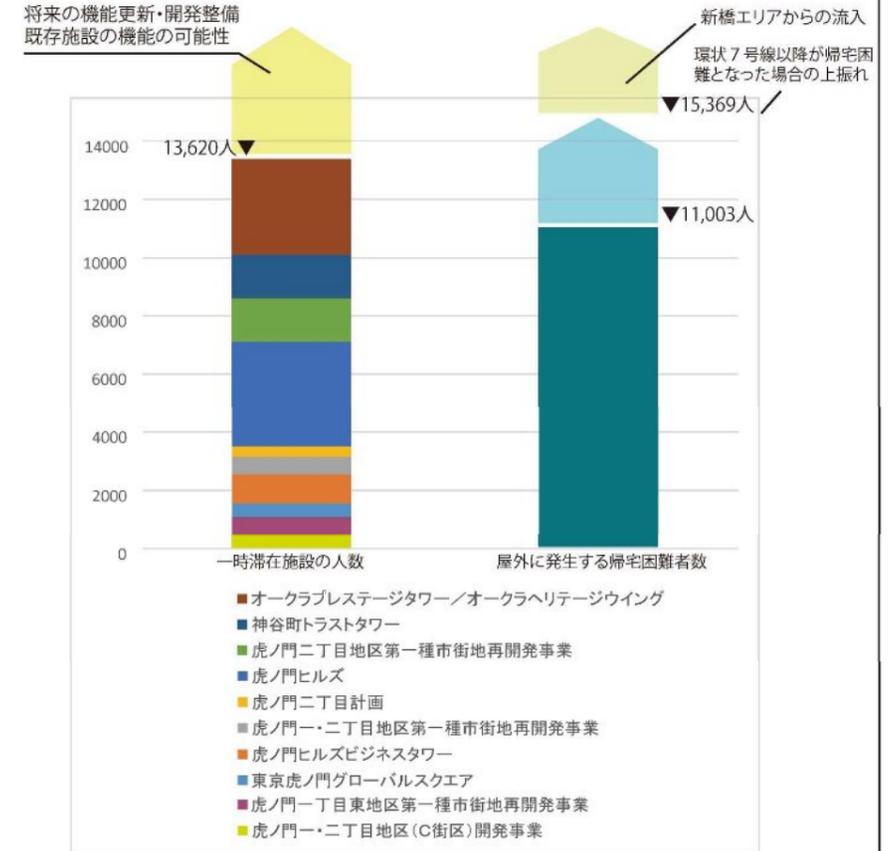


1-9 安全確保の基本的な方針
安全な滞在機能



屋外の帰宅困難者を受け入れる一時滞在施設の拡充

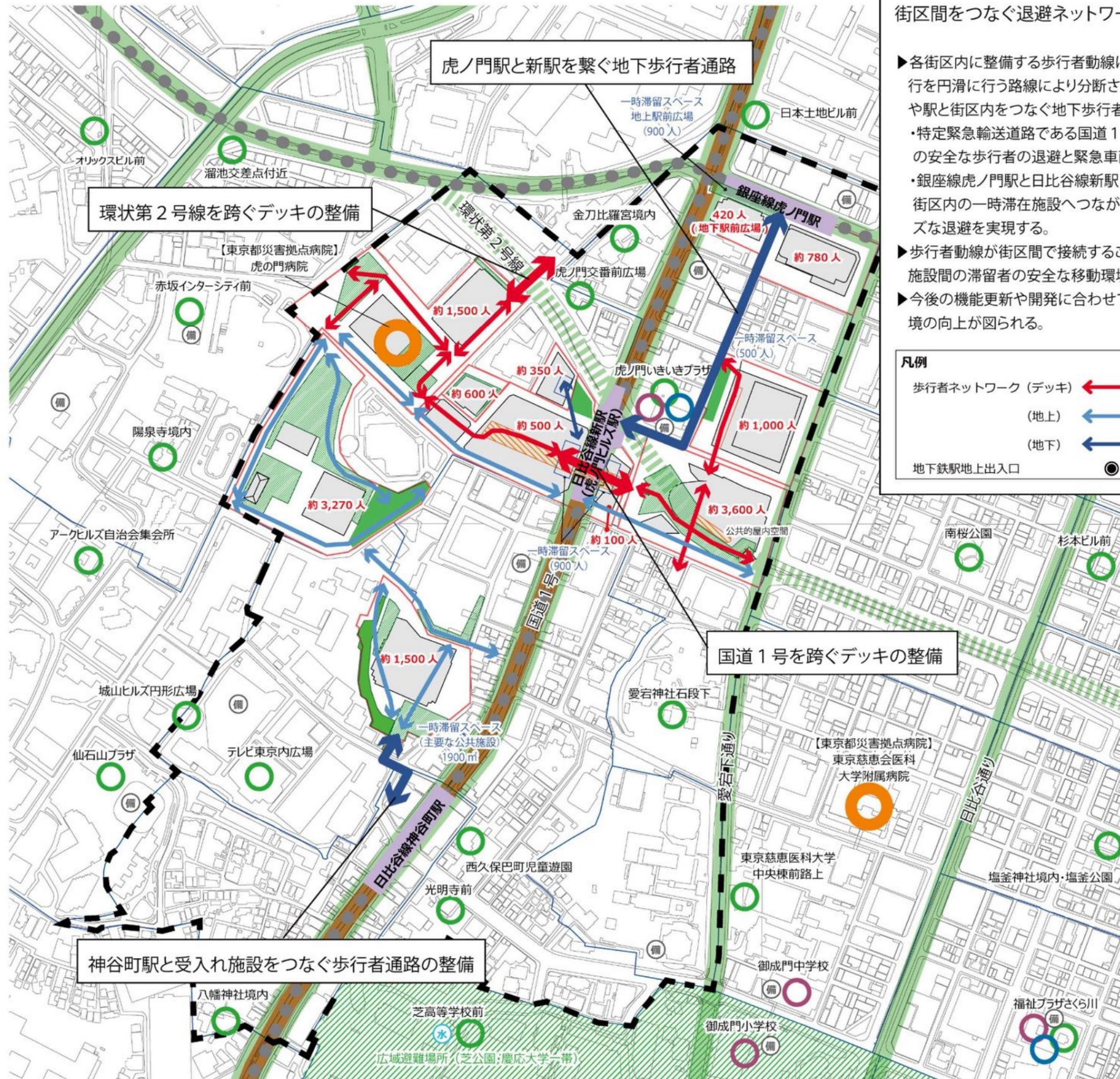
- ▶ 地区内で発生する帰宅困難者のための一時滞在施設や、最大3日間滞在するための備蓄品を備えた防災備蓄倉庫を、都市再生安全確保施設に位置付け、整備する。
- ▶ 環状7号線沿線の密集市街地に延焼被害が出て帰宅困難になった場合の帰宅困難者数の想定は15,369人となり、帰宅できる範囲によって上振れする可能性がある。また建物倒壊危険度の高い新橋エリアからの一部流入の可能性もある。そのため、将来の機能更新や開発整備に合わせて、一時滞在施設を拡充していく。また、機能更新・開発整備により建物の耐震化が図られることにより、屋外への滞留者の流出・帰宅困難者の発生が抑制される。
- ▶ ホテルや貸し会議室が立地する特性から、これらの施設の一部は、屋外滞留者が宿泊や一時滞在する施設として機能する可能性が考えられる。



各街区の一時滞在施設整備規模

事業名	帰宅困難者の一時滞在施設の整備
東京虎ノ門グローバルスクエア	約420人
虎ノ門ヒルズビジネスタワー	約1,000人
虎ノ門一・二丁目地区第一種市街地再開発事業	約600人
虎ノ門二丁目計画	約350人
虎ノ門ヒルズ	約3,600人
虎ノ門二丁目地区第一種市街地再開発事業	約1,500人
神谷町トラストタワー	約1,500人
オークラプレステージタワー/オークラヘリテージウイング	約3,270人
虎ノ門一丁目東地区第一種市街地再開発事業	約780人
虎ノ門一・二丁目地区(C街区)開発事業	約600人
合計	約13,620人

退避ネットワークの形成



街区間をつなぐ退避ネットワークの形成

▶各街区内に整備する歩行者動線は、災害時には、国道1号や環状第2号線などの緊急車両の通行を円滑に行う路線により分断される可能性がある。そのため、街区間を接続する歩行者デッキや駅と街区内をつなぐ地下歩行者通路を都市再生安全確保施設に位置付け、整備する。

- ・特定緊急輸送道路である国道1号や環状第2号線を横断する歩行者デッキを整備し、災害時の安全な歩行者の退避と緊急車両の円滑な通行を実現する。
- ・銀座線虎ノ門駅と日比谷線新駅(虎ノ門ヒルズ駅)をつなぐ地下歩行者通路や、神谷町駅から街区内の一時滞在施設へつながる地下歩行者通路を整備し、駅周辺の滞留者の安全でスムーズな退避を実現する。

▶歩行者動線が街区間で接続することで、エリア全体での平常時の回遊性向上、災害時の受入れ施設間の滞留者の安全な移動環境の創出を図る。

▶今後の機能更新や開発に合わせて街区間の歩行者ネットワークが接続されることで、更なる環境の向上が図られる。

凡例

歩行者ネットワーク (デッキ)	←→ (赤)	地区施設 (地上)	□ (白)	地区施設 (地下)	□ (白)
(地上)	←→ (青)	地区施設 (デッキ等)	□ (斜線)	公園・緑地	■ (緑)
(地下)	←→ (青)	赤字:	一時滞在施設の規模		
地下鉄駅地上出入口	● (黒)	青字:	一時滞留スペース		

【凡例】

- : 計画の対象範囲
- : 町丁目境
- ◆東京都震災対策条例
 - ////: 広域避難場所
- ◆東京都地域防災計画
 - (赤): 東京都災害拠点病院
- ◆港区地域防災計画
 - (紫): 区民避難所
 - (青): 福祉避難所
 - (緑): 地域集会所
 - (白): 防災備蓄倉庫
 - (水): 芝給水所

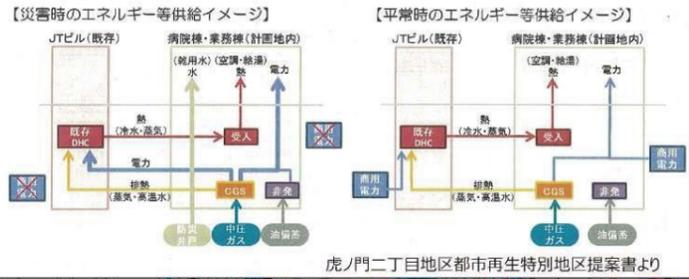
◆道路ネットワーク

- (赤): 緊急輸送道路 ※
- (緑): 緊急輸送道路 (計画)
- (黒): 特定緊急輸送道路 ※
- (赤): 緊急自動車専用交通路 および緊急交通路 ※1
- (黒): 道路啓開候補路線 ※2 (国道1号・外堀通り)

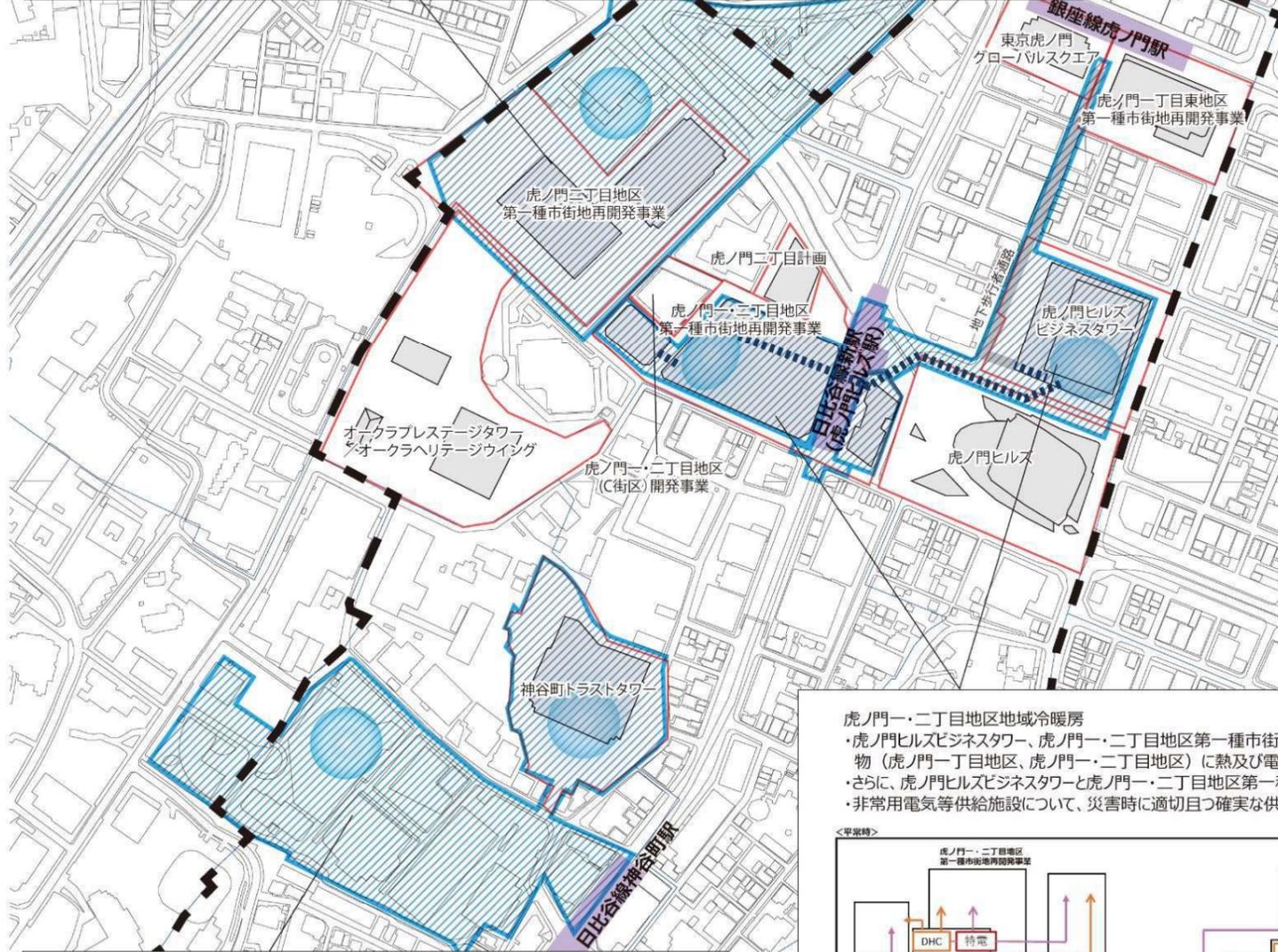
※1 大地震発生時に警察により緊急自動車及び道路点検車など以外の交通規制が行われる道路。
 ※2 緊急通行車両が移動できるルートを切り替える「道路啓開」を実施する候補路線。郊外から都心に向けて八方の路線が設定されている。

1-9 安全確保の基本的な方針
エネルギーの自立

虎ノ門二丁目地区地域冷暖房
虎ノ門二丁目地区第一種市街地再開発事業内に新設するCGS・非常用発電機から、既存の熱供給施設（DHC）に、非常時の電気を供給する。
DHCは、この非常用電気をを使用して、非常時にも供給区域内（虎ノ門二丁目地区ほか）の建物に熱を供給する。



虎ノ門二丁目地区都市再生特別地区提案書より



各街区のエネルギーの自立

- ▶ 地区内の開発プロジェクトの最大電力需要は約57MW、冷熱源需要は約407GJ/h、温熱源需要は約236GJ/hと算出され、広域停電発生時には地区内の業務機能等の継続に多大な影響を与える可能性があり、エネルギーの自立が求められる。
- ▶ 各開発事業では、街区内に非常用発電機やコージェネレーションシステム等の整備が予定されており、災害時にも各ビルでエネルギーの自立性を確保できる計画となっている。

対象区域における主要な大規模建物等のエネルギー需要

対象区域	名称	延床面積 nf	需要電力 MW	ピーク冷熱 GJ/h	ピーク温熱 GJ/h	
地域エネルギー供給施設から電気・熱等のエネルギー供給を受ける建物	虎ノ門一・二丁目 虎ノ門ヒルズビジネスタワー	175,000	14.6	108.5	55.3	
	虎ノ門二丁目地区 業務棟	245,800				
	虎ノ門二丁目地区 (新設部分のみ) 病院棟	180,700	8.6	73.0	55.0	
	虎ノ門四丁目地区 神谷町トラストタワー	198,774	8.2	51.0	19.0	
大規模建物	虎ノ門一丁目東地区 虎ノ門一丁目東地区	120,700	120,700	4.3	27.7	15.6
	虎ノ門ヒルズ	244,360	7.5	42.6	16.9	
	オークラ プレステージタワー / オークラ ヘリテージウイング	180,905	9.1	54.8	33.9	
	虎ノ門駅前地区	47,260	2.1	28.9	29.2	
	虎ノ門二丁目計画	26,500	1.8	11.8	5.6	
虎ノ門一・二丁目地区 (C街区)	16,273	1.2	8.9	5.4		

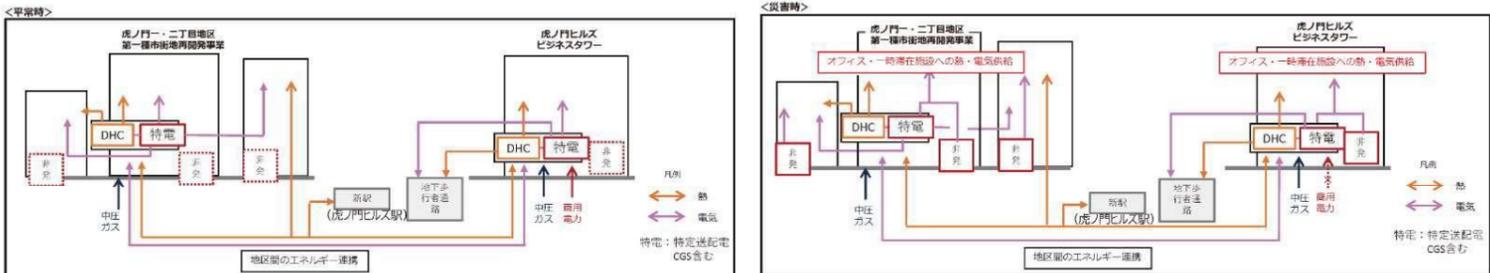
※表内のエネルギー量は、各地区事業者より提供された情報であり、今後変更となる可能性がある

災害時にも機能する面的なエネルギー供給

- ▶ 図中に示す地域冷暖房区域では面的なエネルギー供給エリアが都市計画に位置づけられ、虎ノ門一・二丁目地区及び虎ノ門二丁目地区の地域冷暖房区域では、熱供給施設に非常用発電機やCGSを設置し、災害時にも機能する面的エネルギー供給が計画されている。

虎ノ門一・二丁目地区地域冷暖房

- ・虎ノ門ヒルズビジネスタワー、虎ノ門一・二丁目地区第一種市街地再開発事業内にそれぞれ熱供給施設（DHC及びCGS）・非常用発電機を新設し、平常時・非常時ともに供給区域内の建物（虎ノ門一丁目地区、虎ノ門二丁目地区）に熱及び電気を供給する。
- ・さらに、虎ノ門ヒルズビジネスタワーと虎ノ門一・二丁目地区第一種市街地再開発事業との間でエネルギー連携を行う（平常時・非常時とも）。
- ・非常用電気等供給施設について、災害時に適切且つ確実な供給を行うとともに、日常の適切な維持管理を行うため、関連する事業者等は非常用電気等供給施設協定について協議を行う。



注：
● 地域冷暖房（DHC）
冷水や温水等を一箇所でまとめて製造し、供給するシステム。
● CGS
コージェネレーションシステムの略。発電機等から排熱を取り出し、空調等の冷温熱として利用することで、総合エネルギー効率を高めたエネルギー供給システム。



虎ノ門四丁目地区地域冷暖房
虎ノ門四丁目地区開発事業内にDHCサブプラントを新設し、既存の虎ノ門四丁目地区DHCメインプラントと熱融通を行う。

